

景観

LANDSCAPE

観

KEIKAN

上越人のDNAを探る

特別企画

ひと・もの・ときの交差点

街道クロッシング



出会いとわかれストーリー

すころく道中

私だけが知っている、とっておきの場所
ぶち景観みつけた

景観デザイン賞

活動レポート

まちに光をあてる人ひと

まちは舞台、みんなが主役/
読者より



景観

LANDSCAPE

KEIKAN

上越市景観形成情報誌「景観」第7号

〒943-0832 新潟県上越市本町5丁目5番9号ランドビル2階 上越市役所街なかサテライト内
TEL 025-526-6903 FAX 025-526-6904



国道350号線

自由で、まるでどこまでも続くような
この碧い国道から、頸城の大地へ一歩踏み入れる。
そこは「ひと・もの・ときの交差点」。
さあ、さまざまなストーリーへの扉を開けてみよう。

人は夢を見たいときに海を見る。

まだ行ったことのない世界が、海の先に待っているから。

海からみた陸は、異邦人にとって同じように夢をはらんだ海だ。

海の道、陸の道。

人々が夢見たところに、道ができる。

街道交差点。出会いと別れ。

そこに生まれる物語は、

新しい夢をまた生み出すのだろうか。

(魚家明子)



ひと・もの・ときの交差点

街道クロッシング

ものがたりの生まれる地 出会いとわかれ

人が歩けば、人それぞれの道ができます。
その道の先は交差点になったり、分かれ道になったりします。
出会いや別離、選択が生まれます。
そして物語が生まれるのです。

子どもたちの夢を つなぐ海の道

物語 1

塩津小学校(島根県出雲市)の交流

今から8年前、学校の前の海をいつも横切って行く白い船に手紙を書いたことがきっかけで、博多港と直江津港を結ぶフェリーに招待された子供たちがいました。塩津小学校の子どもたちです。

フェリー航路が廃止の危機に立たされたときも、メッセージを送って応援しました。平成17年7月存続が決まると、4年ぶりにお祝いの招待を受け、再び直江津港から博多へ向けて乗船しました。子どもたちを乗せたフェリーが学校の前を通過するとき、地元の人たちが、漁船から大きな大漁旗振って迎えてくれました。

このフェリー航路は、子どもたちの夢と希望をつなぐ「海の道」だったのかも知れません。

* 2回目の乗船のあと、このエピソードは「白い船」として映画化されました。



物語 2

芭蕉

上越は越後の政治文化の中心であったため、古くは連歌師の宗祇を始め、訪れる文化人が絶えませんでした。

元禄2年(1689)7月には芭蕉が「奥の細道」の旅の途中、七夕前夜の6日に今町(直江津)に立ち寄って句会を開き、翌日には高田城下を訪ねています。そのときの芭蕉の風雅を慕って、上越地方には多くの句碑が建てられています。

また、十返舎一九も「諸国道中金の草鞋」の旅で訪れています。

鉄道が敷かれ、徒歩の旅を強いられることがなくなった後も、多くの文化人や作家が訪れて、旅の思い出をしるしています。

風雅の種を蒔いていく 「奥の細道」の旅

物語 3

安寿と厨子王

越後国府の湊として栄えた直江の津(直江津)には、悲しい物語がたくさん生まれました。

安寿と厨子王の物語に代表される人買いの物語は、能や説教浄瑠璃、替女歌として伝えられてきました。また、義経主従の奥州落ちの悲話も残っています。

悲しい物語ばかりですが、それは上越が西と東、北と南、陸と海をつなぐ交差点であり、そこで人々が出会い、別れて行く地だったからでしょう。

人の出会いと別れは、いつの時代も物語を生みます。

物語の旅人 安寿と厨子王



犀浜七里は砂の道

●奥州道

—今、海水浴に温泉に—



出会いとわかれ
道中

波はうねり、砕け、引いていく。青空に散る波の華をバックに、信越本線のローカル列車が通り過ぎる。柏崎から米山の峠越え、柿崎は日本海が間近い。ふと立ち止まれば、波に戯れる幼い私が、そこにいる。

旧道沿いの砂丘の上に、キリスト教会と見紛うばかりの浄善寺と和風の浄福寺が並び立つ。ともに強風による火災の教訓か、昭和初期の鉄筋コンクリート造。学童疎開の記念写真から、子らの声が木霊する。無事に親元に帰ったのだろうか。墓地から臨む西陽が私を癒してくれた。

商店街の懐かしい看板や食堂を過ぎて、上下浜に向かう道筋。灰色にくすんだ下見板と陽射に照りかえる黒い瓦屋根。低い家並みは海側の樹木と石積の塀に守られて、窓を開け放って

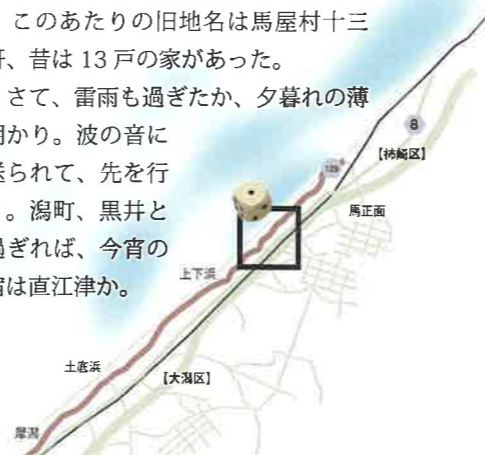


浜下駄
横緒が台の中央にあるのは、踵が上がって砂に埋まらないようにした先人の知恵(柿崎区 井上はきもの店製作)

る。浜風のおかげで夏は涼しいだろう。驟雨を避けて、上下浜の了蓮寺に雨宿り。潮風除けの板囲いの中で、時を経た本堂の木彫が素晴らしい。ご住職夫妻に招かれて庫裏にお邪魔する。先代の大櫓を描いた「掃空」と題する油絵や百年の時を刻んできた振り時計。本堂の彫物は、「文化拾三年」(1816)の墨書が残り、「流しの職人」が長逗留して残したという、腕利き彫り物師の置き土産か。

このあたりの旧地名は馬屋村十三軒、昔は13戸の家があった。

さて、雷雨も過ぎたか、夕暮れの薄明かり。波の音に送られて、先を行く。潟町、黒井と過ぎれば、今宵の宿は直江津か。



黒井から米山峠までの約20キロは、砂浜に沿った道です。その情景を十返舎一九は『諸国道中金の草鞋』の中で、——皆浜辺の砂道なり。それゆえに、この辺りの人、歯のなき下駄を履きて歩く——と書いています。

昭和30年代までは波打ち際まで2~300メートルも砂浜があり、文部省唱歌「海」の松原遠く消ゆるところ
白帆の影は浮かぶ
干瀬浜に高くして
という情景が続き、浜下駄を履く漁師の姿も見ることができました。

また、明治時代まではこの長い砂浜を利用して製塩が盛んに行われていました。芭蕉や十返舎一九も塩焼きの光景を見たかもしれません。日本海の冬は北西からの風が特に強く、土底浜から雁子浜辺りでは竹や榎を植えて風除けにし

てきました。榎の幹や枝が陸へ向かって変形しているのを見ると、いかに冬の北西風が激しいかが分かります。



通称「浜線」と呼ばれる旧8号線には、冬の海風で変形した風除けの木を見ることができます。

※日ごろ「奥州街道」と呼んでいますが、江戸から白河への奥州街道と紛らわしいので、道標に記されている「奥州道」としました。



「かどや」の角で道は折れ曲がる。大きな瓦屋根と下見板の家は街道のランドマーク。



了蓮寺本堂は江戸時代の建立。スケッチや写真を見れば、人々の優しい思い出が語りかけるようだ。

よろず屋の昔看板に「時代夏まつり」の旗がはためき、印度サラセン風、あるいはゴシック風の浄善寺を大櫓が包む。(写真下)
上下浜で「かいどうさん」という屋号の旧郵便局は白と黒のコントラストが美しい。(写真右)



ひと・もの・ときの

交差点

街道豆知識



柿崎区五区にある道標。「左奥州みち 右山みち」と刻まれています。

山とは米山でしょうか？



荒波が寄せては返す海道

●北陸道

—今は海の恵を運ぶ道



出会いとわかれ 道中

越 中宮崎から親不知の険を過ぎて、やっと一息。このスリリングなドライブは、フロントガラスに波のしぶきが降り注ぐ。海と対向車に気を配りながら、コンクリート岸壁にへばりつくように進むしかない。高速道も工事の中の新幹線もほとんどはトンネルだ。

名立小泊の漁港で噂の幻魚を探す。地元出身のサーフィン仲間が酒の肴と自慢する。冬の潮風で旨味が増すという幻の魚は、大きな眼ばかりが黒々と私の心を覗きこんでいる。土産に最適。

名立川に沿って登り、越後三十三観音霊場第一番所の岩屋堂観音堂に立ち寄る。小春日和の陽射が杉木立と藪の隙間にこぼれ落ち、苔むす石段のここかしこに六地藏が佇む。幻感時空間を下れば六世帯だけの岩屋堂集落。昭和49年と墨書されたのぼりが神社の木立にはためき、半鐘には山火事・家屋火災の錆びた信号譜。再びタイムト

ンネルを逆行して、秋の礼祭で賑わうお堂で、あの集落で見かけた老人にまた出遭った。

夕暮れ時に虫生岩戸に着き、断崖上に傾く松に惹かれて坂を上る。黄土色の壁が愛らしい家。居ながらにして佐渡を望むこの景色が忘れられず、古い家を蘇らせて戻ってきた。そう語る家人は、「沖に行く船の見張り番みたいね。」と珈琲の湯気越しに笑顔。裏の畑の向こうは薬師山。お隣はあっても山と海しか見えない。

幻魚の魔法かな。不思議な出会いの一日だった。ここから郷津の隧道を過ぎれば市街地、海沿いの旧道なら五智に出て直江津だ。



街道クロッシング

交差点



街道豆知識



かつて加賀藩前田の殿様も通った北陸道(茶屋ヶ原)また、街道沿いの旧家は明治天皇北陸巡幸時の小休所。

北 陸道は古くから日本の東西を結ぶ街道としてだけでなく、都から奥州への重要な道でした。

しかし、親不知子不知の難所を越えても、山が海に落ち込むようにして迫るところに街道があり、その厳しい旅の様子を多くの文人墨客が書きとどめています。

断崖を背にした「名立」のまちなみ前の由来も、荒い波の立つところ「灘立ち」が訛ったものという説があるように、街道まで波が打ち寄せることもあったようです。その名立は、宝暦元年(1751)4月24日に起きた地震で、4百余名の命とともに一瞬にして失われ、今もその「名立崩れ」の跡として当時の様子をとどめています。

名立は今、穏やかな漁港として、冬になると幻の魚「げんぎょ」干しが雪の晴れ間を縫って行われています。



いつ頃からか、「名立」(名が立つ=有名になる)という字が当てられるようになりました。昭和24年3月、漂着した機雷が暴発して児童生徒42名を含む63人の犠牲者を出す悲しい事故もあり、「平和を守る」の碑が名立崩れの慰霊碑と共に建てられています。

※ゲンギョを「幻の魚」と書くようにしたのは名立の人です。



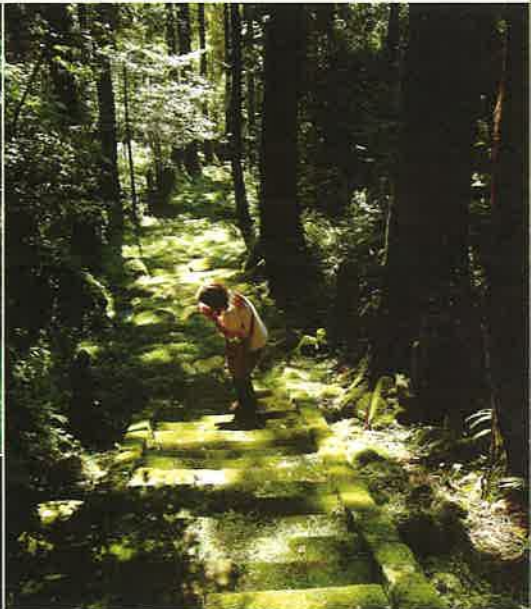
海に落ち込むような山から見下ろす日本海。夕陽のむこうは大陸……。



虫生岩戸の高台のお宅からの海景色。海テラपी。心がほどこけていく。



岩屋堂の集落に続く苔の道。お地藏様、足長蜘蛛、切り株とムカゴがお出迎え。



40年も幻魚干しを続ける名立区在住の三浦初美さん。「漁獲量が減って干す人も少なくなっただけ…」と話す。厳寒の潮風に5~7日さらされて旨みが増す。



謙信も歩いた関東への古道

●松之山街道 — 今は、豊かな里山を守る道



出会いとわかれ
すろ道中

春 日山城主、そして関東管領上杉謙信は「義」を尊び、粘り強く生き抜いた戦国の武将。

松之山街道は中世まで関東へ往還する「いくさ」の道であった。三和区には島の壘、錦の要害、大間城、鞍馬岩などの旧跡が残っている。この月見塚の山道を、若き謙信は愛馬でたどったのだろうか。生い茂る草木に虫の大群がざわめき、足許に小さき獣のしゃれこうべが転がっている。

この先、浦川原・安塚を経て妻有郷魚沼に続く地域は、棚田と過疎が表裏一体の山間地。山里の原風景と称えられても、人口流出に歯止めはかからない。新しく立派な道路が生命線だ。

その中に、“Signs of Memory”という標柱が立つ。旧月影小学校手前に、不思議な板絵の掲げられた木造校舎が

現れた。床屋の回転灯が見えて、笑顔の二人に迎えられる。2000年から始まったアートのワークショップが今日につながっている。初めは傍観者だった人々も、次々に仲間に入り、夢中で続けてきた。イベント後も少し元気の素が残るのか、草取りをして花を植え、積極的に協力するようになったという。

「ここに住んで、風景とか色々あるけど、何が一番？」平凡な問いに、「やっぱり人が宝。お年よりも元気になってきたし」という答えで、我に返った。あちこちの街道を行きながら、初めてそこに住む人の深い心に触れた。景観を育み、日々眺め、感じて、また育てるのは、やはりそこに生きる人々。改めて「ひと」の交差点に立ち止まった想いがした。

災害ボランティアもアートイベントも、人の往来が支えている。戦国の世の関東への道は、今は相互交流の道へと変貌していく。



街道クロッシング

ひと・もの・ときの交差点

街道豆知識

上 杉謙信も歩いた旧三国街道は、古くは春日山城下から魚沼を通り関東へ抜ける道で、江戸期に城が高田へ移るとその起点も高田へ移動し、通称松之山街道といわれるようになりました。「札の辻」から旧三国街道塩沢宿を結ぶ街道です。雪深い山間地で、峠を越えて下ると、今度は川を横切るという厳しい道が続きます。



添景寺下へ続く旧三国街道の道形が良く残っている安塚区安塚。



表面には滑り止め用の切目が横や斜めに入っています。



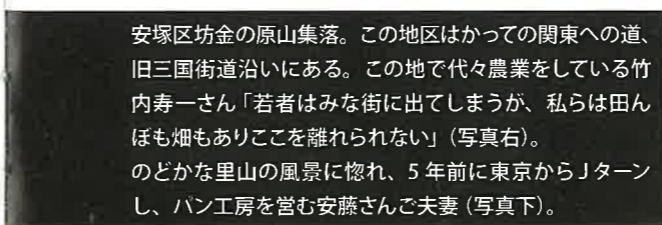
木造の旧校舎（横住）は丸山巧さんとあけみさんの仮住居兼理容所。ナイトブルーを背景に赤白の線画で、狼が水面に映るお月様の影をくわえて行く。アート作家、原高史さんの総合プロデュース。北欧神話のような物語絵と屋号がローマ字で描かれている。（写真右上）



三和区山高津の街道筋にある古民家レストラン。



木漏れ日の先に
騎馬姿の謙信公が……。
（高谷川に架かる茶屋橋）



安塚区坊金の原山集落。この地区はかつての関東への道、旧三国街道沿いにある。この地で代々農業をしている竹内寿一さん「若者はみな街に出てしまうが、私らは田んぼも畑もありここを離れられない」（写真右）。のどかな里山の風景に惚れ、5年前に東京から「ターンし、パン工房を営む安藤さんご夫妻（写真下）。





越後一の城下を眺めつつ

●北国街道 — 今も昔も「上越」の顔



出会いとわかれ 道中

直 江津の港町を眼前にしなが
ら、五智国府からの松並木
街道は内陸へ向かう。高田
に城が移されて、関川を渡る橋は稲田
橋だけになった。旅人の統制と城下繁
栄の思惑通り、高田の町は賑わった。
富山の薬売りも加賀の殿様も通った
道。芭蕉師弟、十返舎一九、鈴木牧之、
文人墨客の足跡を辿ってみようか。イン
ターネットのない時代、頸城平野の
稲作を背景とした人と物の往来が、こ
の町を成り立たせていたのだ。

追分地蔵のある土橋あたりは、昔
の面影が濃い。陀羅尼口から城下に入
り、鍵型の本町七丁目から、大きな
商家が立ち並んだ北国街道の軸に入る。
明治の地図を開けば、旅館・はた
ごが目白押しで、本陣もあったという。
その三光館にて、ご主人に話を聞
く。「天と地と」の構想を練るために
海音寺潮五郎氏がこの部屋に逗留し
た。戦中は将校の宿となり、海外出兵



の話を漏れ聞いた仲居さんが、こっそ
り親元に伝え、戦地に赴く息子にはる
ばると会いに来たという。
“はたご”の縁で、その縁者が訪ね
てくることもあったが、もう残り少
ない。「昔の下小町で最後の一軒になり、
旅館の灯を消したくないという想いだ
け」と、主人は語った。
近代化された商店街を抜ければ、本
町二丁目から南本町、伊勢町口へと昔
の雁木通りが続く。時代の変遷をくぐ
りながら、その骨格は江戸時代のまま、
今日も時の積み重ねが暮らしの中に実
在するこのまち。
重い荷物なのか、それとも、人々を
つなぐまちの財産になるのか。20年
ぶりの大雪に埋まる雁木通りを歩みつ
つ、その歴史の重みを実感した。



街道豆知識



土橋の「追分地蔵さん」は、北陸道と今町（直江津）への分かれ道。祇園の神輿は今も「いままちみち」を通して高田へ出てきます。

慶 長 19年（1614）松平忠輝によって築か
れた高田城は、松平光長、榊原家へと引
き継がれ、
一当国一の御城下にて、繁盛の処なりー（十
返舎一九『諸国道中金の草鞋』）とあるように、
越後随一の賑やかな城下町でした。
その北国街道は、高田城下の出入り口である
陀羅尼口番所から伊勢町口番所までは、ち
ょうど一里（4キロ）の道のりで、そのうち
のメインストリートは直線で2キロ。そこ
には商家軒を並べて職種ごとにまとまってまち
をつくり、様々な商品が店先を飾って旅人の
目を楽しませてくれたことでしょう。
また、このメインストリートの両側に並行
して2本の職人町、西には寺町があり、文字
通りの賑やかなまちでした。



矢代川に架かる「せわたりばし」は、本当は瀬端橋といひます。江戸から高田までの間で一番長い橋でした。



『大正13年新潟県肖像録』に収められた三光館の写真を前に、ご主人吉井時雄さんに伺う。初めは横町（本町二）にあって、戦中まで旧満州牡丹江にも店があった。戦後、今の場所へと移った。明治の元勳西園寺公望揮毫の看板（横町時代）や、よく訪ねてくれたお酒の博士坂口謙一郎が、歌会始の召人として詠んだ歌の色紙（写真左下）が三光館の歴史を物語る。



「越後高田商業地図」高橋清祐 蔵



高田のまちを流れる青田川沿いで見つけた町家の景色。まちの歴史を刻む建物の時を日々吸収していくようだ。

「札の辻」
城下の決まりやお触れの札を立てたところで、また各地への里程の起点になっていました。写真の先は東本願寺高田別院。





越後富士妙高山と二人旅

●北国街道 — 今も妙高山が見守ってくれます



出会いとわかれ 道中

高田を後にして瀬渡橋から見上げる妙高は、この旅の道連れか。

中郷区の小出雲坂からはっきりとした登りとなり、自転車のギアを変える。子どもの頃は、まだ砂利道で松並木があった。一里塚と板橋の踏切を過ぎて、道沿いに馬頭観音の祠が点在する。険しい坂道に息絶える馬も多かったのだろうか。しばし合掌。

二本木で木立の向こうに引込み線と黒い貨物が見えてきた。この駅には、いまや信越本線唯一のスイッチバックが残っている。近代化と殖産興業の渦中で、鉄道開通と豊富な雪解け水を使った水力発電は、化学工場をここに誘致した。

明治44年築の木造駅舎は、豪雪を耐え忍んできた風格すら漂わせている。

坂道の中途、白山神社境内で一服



と立ち寄れば、先客の子ども達が出迎えてくれた。灯籠の穴に鳥が巣を作り、卵を孵していたという。お百度石は、「ここ、蜜ついでるよ」と可愛い秘密をそっと打ち明けてくれた。放課後、近くのお社で遊び呆けた日々、蓮子の隙間から覗いた薄闇のご神体、祭礼の晴れ舞台。記憶の彼方に浮かび去る。

白山社は小振りであるが、二本木宿の禁制を刻んだ石柱が立ち、明治天皇小休所となった旧家が歴史を刻む。神社裏手の崖から見下ろせば、田んぼの中を短い編成の客車が通過する。子ども達が、芝栗を拾ってくれた。さて、妙高を見納めて追分宿への道を行こう。あの子らはお社の童子達か、振り返れば静かな境内に別れを告げた。



小出雲坂を登りきれば、頸城の平野はもう見えない。そして出迎えてくれるのは頸城三山、その景観が美しい。



ひと・もの・ときの 街道クロッシング 交差点

街道豆知識



猿石 関山神社の亀石と対のもので新羅文化の影響を示すとか、平安時代末期の作だとかいわれています。(稲荷山新田の稻荷神社境内)

江戸時代は佐渡の金を江戸へ送る「金の道」として重要視され、街道は中山道追分宿まで登りの道が続きます。「越後見納め小出雲坂よ」とうたわれた小出雲坂を登りきると、右手に越後富士妙高山を見ながら広々とした景色のなかを歩きます。二本木周辺の道端には、馬頭観音やお地藏さんなどの街道らしい石仏をたくさん見ることができます。



白山神社の隣には、明治天皇小休所となった旧家が歴史を刻みます。



白山神社には大樫に猿のコシカケ、半鐘もある。楽しい遊び場に集う童たち。丸い石柱には二本木宿での掟が彫られています。くわエタバコの禁止は宿場の火災に注意が払われたからでしょう。



小出雲坂を少し登って振り向けば、目の先に頸城の大地、米山の裾野の果ては日本海。

藤沢の一里塚跡。東側の一基のみ現存。



二本木駅の煉瓦積油庫と地下通路。



私だけが知っている、とっておきの場所!
ぷち景観みつけた!

私の街道

Petite landscape in Joetsu



なにを差し出すの 指出街道(四辻町)

「差出」とは、大名が実際に地検せず、家臣に面積、作人、年貢などの申告をさせること。



シェーの松(加賀町)

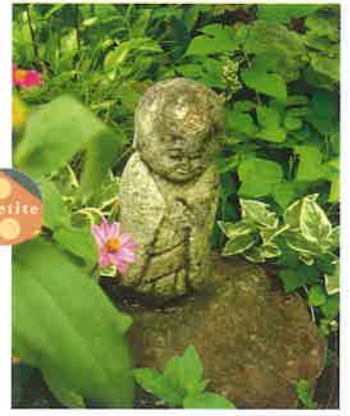
懐かしの漫画「おそ松君」で、イヤミのおじさんの仕業。脚と手を曲げるアレ…に似てない?

人が住むところでの 積雪日本一(8.18メートル) の記念柱(板倉区柄山)

長野県と接する関田峠の直下に位置する柄山集落。昭和2年2月13日の積雪が何と8メートル18センチを記録した。

頭でっかち地藏さま (板倉区機織)

伽藍堂でみつけた(民家レストラン・冬季閉鎖)庭先お地藏様! 幼児体形の2.5頭身。



まちが大きくなったせいでもないんだけど、まちを歩いていて見えるものが増えたような気がします。み〜んな「私たちのまち」の眺めです。ちょっと楽しくなりませんか?



潮風爽快ペダルをこいで (吉浦)

北陸本線が複線電化で多くがトンネル化され、取り残された旧線が「久比岐自転車道」として生まれ変わった。

どんどの池 (大潟区九戸浜)

九戸浜は、アイヌ語で「水気のある川、池のほとりのこんもりとした丘陵」の意味といわれている。この池は300余年前から枯れることなく水が湧き出ている。



箱入り娘? (大潟区土底浜)

とってもグラマラスな鏝絵。居酒屋さんの2階からお客さんを手招き。鏝絵とは左官職人が、鏝を使って漆喰で土蔵の扉などに装飾するもの。



五十くんてだ〜れ (五十君神社) (三和区所山田)

ご神体の懸仏は、県の文化財に指定されている。室町、戦国期には武士の信仰も厚かった神社。



夢市場(三和区神田)

近くには「いっぶくギャラリー図書館」が。地域の心意気を感じる看板。



足裏マッサージみたい? 善徳寺の仏足石(吉川区国田)

お釈迦様のおみあしは草くて、水をかけると浮かび上がる色々な仏具の絵。

この木なんの木? (吉川区尾神)

200年以上も風雪に耐え、春には爛漫のしだれ桜が咲く。

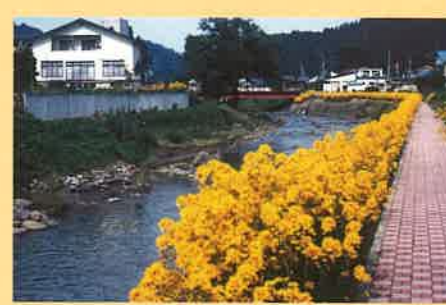


蛍のコンサート橋 ほたるばし(大島区仁上)

保倉川に架かる落雪式屋根の橋です。夏にはホタルの群遊を観賞することができます。

映画のワンシーン? 庄屋の館(築350年) (大島区菖蒲東)

築350年といわれている中門造り農家「飯田邸」。現在地元の人々が管理しているが、地区のシンボルとして再生・活用が期待される。



100万本のヘリアンサス♪ (安塚区安塚)

国道や小黒川沿いなどに咲く100万本のヘリアンサス(柳葉ひまわり)。



ハサ木ウシ(牧区今清水・鷲尾)

昭和30年代までは、どこの農家でも飼われていた牛。近年では牛を見かけることは珍しくなった。牛小屋では親牛が心配して「モー」と鳴いていた。

残していきたい 里山の風景(牧区七森)

牧区には豊かな自然が残されており、日本の原風景ともいべき棚田が広がっている。



わき見運転に注意! (清里区上深沢〜菅原)

春はスイセン、マーガレット、秋はコスモスが咲き乱れる田園景観。子供たちの情操教育と環境美化に協力している地元の皆さんの汗の結晶。



キヨサトの地上絵(清里区棚田)

日本の原風景といわれる“棚田”の景観を残そうと、棚田の地名を持つ住民が田んぼの賑わいを求めて始めた稲文字農業は、そのステージごとに姿を現す大地からのメッセージ。





景観大賞

4 景観部門

富永邸 (三和区神田)

推薦者/菱谷泰久 所有者/富永正雄

Comment

125年程前建造された中門造り平屋建ての農家建築。苔庭は黄緑色に包まれ、お座敷から外への広がりによって日本建築独特の境界を感じさせない魅力があります。

準景観大賞

大月の棚田 (牧区大月)

推薦者/佐藤真司

Comment

棚田と点在する深緑の杉林がコントラストを引き立てています。朝陽が遠景の霧に反射して幻想の世界を演出しています。



景観賞

武蔵野酒造「楽酔亭」 (西城町4)

推薦者/佐藤真司、佐藤正清 所有者/(株)武蔵野酒造

Comment

大正時代に建てられた旧住宅の一部を活用して建てられたゲストルーム。約500坪の敷地に静かな庭を設けています。



景観賞

黒塀に囲まれた旧邸【瀧本邸】 (頸城区百間町)

推薦者/くびきのお宝のこす会、田辺義輝
所有者/瀧本宜弘

Comment

広大な敷地と回遊できる庭園をもつ旧邸。表門と黒塀が白壁とマッチし、落ち着いたきのある景観を形成しています。



景観賞

ポプラ並木【脇野田〜岡原間】 (中箱井)

推薦者/鷺江俊彦、櫻出久夫 所有者/上越市

Comment

道路の両側に数百メートル続くポプラ街道です。これから10年・30年後には、間違いなく名所と成りうる大器です。



景観賞

諏訪神社の大ケヤキ (稲田1)

推薦者/齊藤幸一郎
所有者/諏訪神社大ケヤキ保存会

Comment

800年もの間、田畑を見守り続けた「御神木」は、幹回り6メートルもあり、堂々とそびえ威風があります。



景観賞

光ヶ原のソバ畑 (板倉区関田)

推薦者/保坂勲作 所有者/どうがたの郷特産物生産組合

Comment

妙高連峰を背景に展開する広大なソバ畑。畝の曲線は、緑の手織り絨毯を敷き詰めたように美しい。



景観賞

瀧澤邸 (春日新田1)

推薦者/菱谷泰久 所有者/瀧澤逸男

Comment

往年、宿場として賑わったという名残を広い道幅に留めています。格式ある門、黒塀も手入れが行き届いています。

第9回 上越市景観デザイン賞

THE 9th LANDSCAPE DESIGN AWARDS

景観デザイン審査委員	阿部 靖子	上越教育大学助教授
	遠藤 隆夫	新潟県建築士会上越支部三和分会長
	高波 重春	上越市緑化アドバイザー
	筑波 進	上越市美術デザイン専門室長
	横山 郁代	NPO法人「木と遊ぶ研究所」専門員
	渡邊 恵美	NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部会員

市では市民の皆さんに景観への関心や理解を深めていただき、美しく魅力のある景観づくりをおこなっていくことを目的に、平成7年度より「景観デザイン賞」を実施してきました。17年度は、市の景観全般を対象にした「景観部門」と美しい景観づくりに貢献している市民や団体の活動を対象とした「まちづくり活動部門」について募集を行いました。

ここでは、97点の応募の中から受賞された景観・活動を紹介します。



景観活動大賞

やすづか花の会の活動

活動地/安塚区本郷、須川他 推薦者/やすづか花の会

Comment

「やすづか花の公園にしよう」を合い言葉にボランティア活動を進めています。温泉斜面・国道沿い・河川の散歩道等を黄色で埋め尽くす100万本の「柳葉ヒマワリ」やゆきだるま高原エリアの休耕棚田を活用した「ハナショウブ」の丘が白・薄紫・紫と咲き乱れる眺望は見事です。

まちづくり活動部門



準景観活動大賞

ほたるの里づくり

活動地/大島区仁上 推薦者/大島地区振興協議会

Comment

6月〜7月中旬: ほたる祭り、ホタルコンサート
2月: 雪ほたるロード、3000本のろうそくを灯した「雪螢」
ほたる公園・町内会の清掃など「ほたるに優しい」環境づくりを行なっています。



準景観活動大賞

ふるさと桑取の風景

活動地/横畑 推薦者/NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部

Comment

●伝統技術の伝承と景観保全
① 古民家改修「桑取ことごと村づくり学校」
② 水車復活
③ ふるさと棚田オーナー
棚田の景観及び環境保全と都市と農村の交流を目的とした事業などに取り組んでいます。

西横山のまちづくり活動

活動地/西横山 推薦者/西横山まちづくり協議会

Comment

地域住民が一体となった参加型まちづくりの活動を目指し、古民家を改修した交流宿泊施設の運営や300本の植樹によるドンダリの森での大学生と子供との交流など幅広い活動を行なっています。林を切り開いた散策道もこれからの完成が楽しみです。

奨励賞



奨励賞

「あわゆき組」の活動

活動地/高田市街地 推薦者/高野恒男

Comment

城下町の雰囲気は今も残る雁木のあるまちなみ。その中にある伝統を持っている多くの町家。活気あるまちづくりをするための各種イベントを実施しています。雁木ある町家を「角巻で歩こう」、観桜会で人力車を走らせる。武家屋敷にて「甘味処開店」など、「町に活気」をモットーにして活動しています。

活動レポート 1

くびきのお宝 のこす会

(頸城区百間町頸城商工会内)

当時の頸城村の有志が「わが村を見直して、村外に発信できるものを発見し、まちおこしにつなげよう」と始まったのが「くびきのお宝のこす会」です。

そのひとつに、長年地域の足として親しまれてきた「軽便」の頸城駅にあったターンテーブル(転車台)の発掘からお宝探しが始まりました。そして軽便のシンボリック存在だったSL「コッペル2号」の展示、上越地域には珍しい回遊式庭園の瀧本邸の整備公開などをおこなってきました。平成15年、軽便鉄道の研究者から、廃線まで活躍した昭和28年製造の

ディーゼル機関車、客車など、8両の車両が神戸の六甲山の山中に保管されているという情報もたらされ、会の熱心な運動で、平成16年に里帰り公開のはこびとなり、全国から大勢のファンが訪れました。

コッペルやディーゼル機関車を飾っておくだけではなく、復活させて走らせて見たいと、会の夢は広がります。

頸城区にはまだ、樹齢四百年の栄恩寺枝垂桜、大池など「お宝」がま

だまだたくさんあります。

地域の宝として大切に、大いに活用して行きたいものだと感じました。



瀧本家(懐徳亭)



栄恩寺の枝垂桜



まちに
光をあてる
人びと

地域の身近なものを見つけ出し、
埃を払って、磨いて、光をあててみれば、
みんなの「お宝」

活動レポート 2

横春日町界隈の まちづくり

(上越市南本町三丁目)

高田の市街地南部は北国街道の道筋、南本町三丁目(旧横春日町)は、南本町小学校から青田橋までの町内です。路線バスの通る雁木通りに各種商店が並び、学校、幼稚園、お寺さんから病院まで徒歩圏内。街灯もついて、小さな町の目抜き通りの雰囲気です。数年前から、町をあげての祭りや雁木整備に一所懸命な町内会長の石川總一さんに伺いました。

…まちづくり協議会では、10年ほ

ど前から上越祭り(祇園)で歩行者天国などのイベントを続けてきたけど、「ここは場末だ」という危機意識が、「何か仕掛けていかねば」という気持ちにつながっている。

平成16年に話題となった時代祭りは、町内史誌の編纂作業を通じて、町の歴史を改めて知り、伝えていきたいという思いから。江戸時代の御金蔵の場所も探してみたい...

実際、由緒深い寺院や、芭蕉の句碑、登録文化財の鮎屋さんなど、お宝は尽きません。南本町二丁目(旧関町)にも馬市があったらいいと聞きました。夜の雁木を照らすレトロな雁木灯は平成16年2月に設置されました。「いつ、どこで、だれに会っても、顔の見える明るさ」がキーワード。

町の自慢は、チームワークのよさ



「雁木どおり時代まつり」の賑わい(平成16年10月)



十返舎一九も逗留した鮎屋



レトロな雁木灯(南本町三丁目)

でしょうか。この冬の一番雪下ろしも、住民からの苦情もなく順調に終わり、一安心。

町の願いは、雁木が途切れずに続くこと。もちろん、市の助成事業には協定を結んで申請しています。一時は火

災が続きましたが、夜廻りを続け、この2年近くは無火災を誇っています。さらに、商店が歯抜けになった場所にも、新しい店を呼べるくらいに魅力のある町が目標という言葉に、地域の底力を感しました。

「まち」は舞台! みんなが主役!

Our town is a stage! We all have a major role!

歴史・景観まちづくり推進室
からのお知らせ

「景観」

は、私たちを取り巻く日常的な環境の跳めであり、美しい景観形成に向けては、市民・事業者・行政それぞれが景観を意識した取り組みを続ける必要があります。ここでは、景観形成に向けた市の取り組みを紹介します。



after

ガードレール塗替ワークショップ



近隣住民や事業所職員約130名が参加し、歓喜橋から馬出橋間両側600メートルにわたりガードレールの塗替を行いました。

景観セミナー



before

ガードレール色彩改善セミナー

「水辺景観のまちの色」について、講師により他の自治体での取り組みを紹介してもらった後、高田地区中心部を流れる儀明川沿いのガードレールの色を参加した住民によりグレーベージュ系に決めました。



高田の雁木が「手づくり郷土賞(大賞部門)」を受賞

地域の個性や魅力・活力をつくり出している社会資本を表彰する国土交通省主催の平成17年度「手づくり郷土賞大賞部門」に「高田の雁木」が選ばれました。手づくり郷土賞は昭和61年に創設され、この大賞部門はかつて受賞したもののなかから、現在まで維持し魅力ある街づくりに貢献しているものが選ばれ、全国で37件が受賞しました。雁木づくりガイドラインの策定やイベントの開催など地域に根ざした市民レベルでの保存活用の取り組みなどが評価されました。



景観形成に重大な影響を及ぼす行為の届出と景観アドバイザー制度について

市では、適正な景観形成への誘導を図るため、上越市景観条例に基づいて、「景観形成に重大な影響を及ぼす行為(一定規模を超える建築物等の新築、改築、大規模な修繕、外観の様式替え及び色彩の変更など)」に際して届出が必要です。

また、届出にあたり、建築物や工作物、広告物などのデザイン、色彩などについて、周辺景観に調和させるにはどのような配慮をしたらよいかなどの視点から、専門家によ

るアドバイスを実施しています。ここでは、17年度にアドバイザー制度を活用した事例の一部を紹介し、制度の詳細については市のホームページをご覧ください。

平成17年度アドバイス件数・・・82件



飯の交差点脇に「くいどころ里味飯店」を新築する工事で、当初外壁は鮮やかな黄色の計画でしたが、周りに田んぼが広がっており建物は周辺の景観に影響を与える規模であったためアドバイスを行いました。その結果、外壁色は薄いベージュに変更し、遠く山並みともマッチする良好な景観形成に協力いただきました。

From READERS

読者からのお便り

景観第6号にたくさんのご感想をお寄せいただき、ありがとうございました。一部をご紹介します。



寺町と行燈のとりあわせ見事です。奈良では手づくりキャンドルで七夕やってみたり、回り灯籠なども使っています。寺での市も素晴らしい。寺を使った落語やカイドンなど人の集まるコミュニティになっていくとマルです。

(西宮市 35歳男性)



京都から上越に引っ越してきて5ヶ月が過ぎようとしています。どうすれば早くこの町のことをすることができるのか、と考え、暇さえあれば車、自転車、徒歩でいろいろ回りました。情報誌にも目をとおして随分わかってきました。特に「景観」は美しい写真と興味深い記事がいいですね。寺町は古都京都よりも古都らしく、私はすぐに好きになってしまいました。

(市内 33歳女性)



私たちが忘れていた思い出の景観を見ることができてうれしかったです。人々とふれあいのある町、よいですね。こんど町が他の町村と仲良くなるので、小さな村の祭りや行事を取り上げてもらうとよいですね。

(市内 66歳女性)



表紙の写真、寺町万華鏡の企画を一見し感動しました。私共はこの冊子をたよりに街歩きにめり込みそうです。正善寺のあじさいの里の看板が周辺の景観に調和すべく現在の物に変更になったこと、初めて知りました。

(市内 62歳男性)

編集後記

14の市町村が一つになって新しい上越市が生まれました。海に、野に、山に、街に…、それぞれの地域の生業が生む色合い(性格)はさまざまで、上越市がいつそう豊かになりました。

道が物を運び、人を運び、物語を運んで作られてきた、地域の景観を編集委員で見してきました。

この道の往来をもっと豊かにし、新しい上越市の顔<景観>をつくらなくては……。 (さ)

【表紙写真】

上下浜で「かいどうさん」という屋号の旧郵便局。白と黒のコントラストが美しい。

【裏表紙写真】

中郷区白山神社の境内で遊ぶ地元の子どもたち。今はあまり見かけなくなったのかな光景。

写真提供/秦 昭吉、細谷愛子、朝田の福文字研究会、くびきのお宝のこす会(敬称略)

編集委員/佐藤和夫(出版業/本誌編集長)

市川康男(市民)
魚家明子(詩人)
太田均(デザイナー/本誌アートディレクター)
せきゆうこ(建築家)
樋口喜美代(イラストレーター)
宮崎朋子(カラーコーディネーター)

発行/上越市企画・地域振興部企画政策課

歴史・景観まちづくり推進室